

荒川・東京港“船上”親子学習会を開催しました。

平成25年8月23日（金）に、荒川下流河川事務所と東京港湾事務所が共同で「荒川・東京港“船上”親子学習会」を開催いたしました。

午前中のAコースは旧中川にある「番所橋船着き場」を10時に出発。出航直後に、「荒川ロックゲート」へ進入し、「船のエレベーター」を体験してもらいました。大きな2つの水門の開け閉めによって、船はみるみるうちに、2m近くも上昇。江東デルタの“ゼロメートル地帯”の低さを実感してもらいました。



船のエレベーター、荒川ロックゲートを体験



日本最速の閘門の開閉を体験

荒川ロックゲートを通過するとそこは「荒川」。往復で約20km、荒川についての学習です。荒川クイズをしたり、川の役割とその管理、荒川の水辺を守る取り組み、広域地盤沈下の経緯と“ゼロメートル地帯”の出現、そこを守る高規格堤防などについても勉強してもらいました。

勉強も大切ですが、川の真ん中に立つと、東京の空もこんなに広いんですね！風通しもよく、気温も2～3℃低いのでとても気持ちよかったです。川の魅力、感じてもらえませんでしたでしょうか。



船上から荒川を学習



船上から荒川を学習

続いて荒川河口橋をくぐり東京湾へ。そこで東京港湾事務所に説明をバトンタッチし、葛西海浜公園と人工の砂浜、遠くの東京ディズニー・リゾートや若洲海浜公園を見学しました。

若洲海浜公園がゴミの埋め立てによってできた島であることなどを聴きながら進むと、目の前に巨大な橋が出現！今回の目玉の一つである「東京ゲートブリッジ」です。

真下からみる東京ゲートブリッジは「圧巻」の一言。そのゲートブリッジをゆっくりくぐりながら、大きな船を通すために必要な海面からの高さ、飛行機の航行を妨げない上空の高さ制限、軟弱な地盤条件、3万6千トンもの重さを支える巨大な橋脚などについて、クイズを交えながら勉強しました。大きさもスゴイですが、構造の工夫や建設の苦労もスゴかったですね！



荒川河口から東京湾へ



東京ゲートブリッジを学習

東京港の中では、水深16mの耐震強化岸壁の整備やローロー船※用の岸壁の整備、海底トンネルの換気口など、普段は目にする事のない港湾施設を学習しました。

大井ふ頭では、東京港に入港できる最大級の貨物船に出会い、“超”巨大な船とそのコンテナ、荷さばきを行うクレーンなどを見学しました。

※船の中にトラックやトレーラー等が自走して乗り込み、貨物の積み降ろしを行う輸送船のこと。



港湾施設の見学と解説



東京港“最大級”の貨物船

午後のBコースは、午前と逆のコースで東京港、荒川を見学しました。

「荒川・東京港“船上”親子学習会」は、夏休みを利用し、普段は見ることができない視点で「河川」と「港湾」という社会基盤と一緒に学習してもらう企画です。

川の“機能”を知り、地域の状況を知ること、治水対策や防災対策の重要性を考えるきっかけになって欲しい。また、日本の経済発展や、“暮らし”に欠かせない“物流”と、それを支える港湾施設の役割を知って欲しい。そんな思いで今後も学習会を開催して参ります。

またのご応募、ご参加をお待ちしております。

事務局



Aコース（午前）に参加いただいた皆さん



Bコース（午後）に参加いただいた皆さん